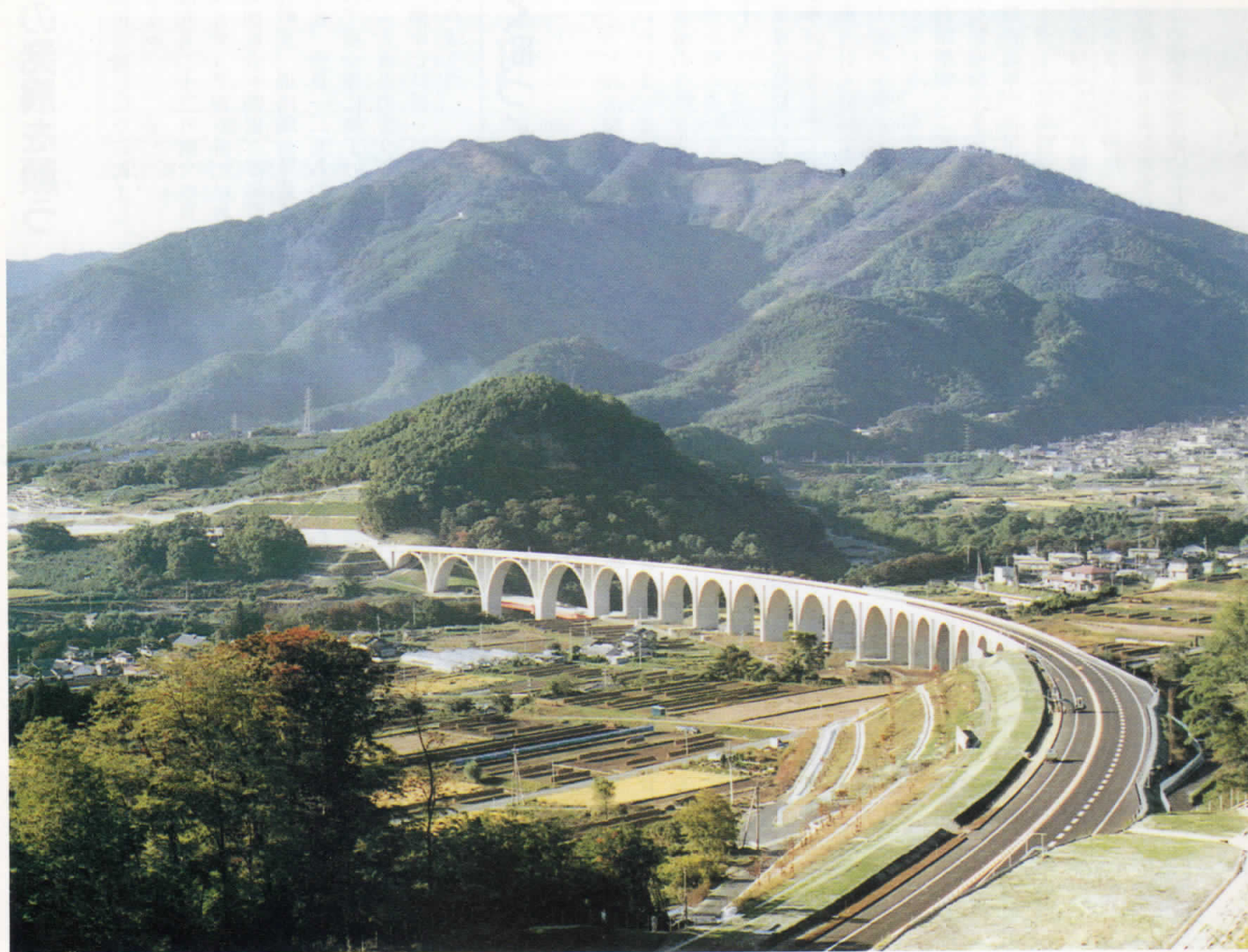


「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成8年12月25日



上信越自動車道・上田ローマン橋

この上田ローマン橋を過ぎるとすぐ上田菅平インターです。

東京都心から郷里真田町まで200キロメートルを約2時間半で行くことができるようになりました。

右上方に見えるのは真田町です。

NO.

9

新時代に向けて郷土の発展を願う

会長 小林孝雄



皆様は如何お過ごしになられましたでしょうか。

「日本ダボス」第九号をお届けいたします。平成八年は内外共に波乱の多い年でしたが、会員

今年は九月二十三日秋分の日「アルカディア市ヶ谷」において第九回総会を開催、真田町より若林町長、堀内議会議長はじめ三十名、会員一二五名のご参加を得て盛会裡に終了いたしました。ふるさとの香りが会場に満ち、懐かしい語らいが賑やかに行われました。

真田町との交流事業として、初めて五月に真田町少年サッカーチームを招待し、東京世田谷の玉川小学校、中町小学校のチームと親善試合を行いました。次代を背負う少年達が、スポーツ交流を通じて逞しく成長している姿を見て、大変心強く感じました。

さて、待望の上信越高速道が十一月に全面開通し、また北陸新幹線が来年十一月に開通の予定で、まさに新時代の到来と云ってよいだろうと思われれます。二十一世紀も指呼の間に迫り、時代は大きな転換期を迎えようとしております。この高速交通時代は、私共に量り知れない恩恵をもたらすであろうことは疑いの余地はありません。距離的、時間的に地域は狭くなり、往来は容易となり、相互の交流が促進されることでしょう。私共はこうした恩恵を充分に享受し、これを有効に活用する機会を増

二十一世紀の礎を築く町づくりのために

真田町長 若林康朗



生産者にとって死活問題です。真田町といたしましては、農協と共に生産者の生活を守るためにその対応に努めているところであります。

東京真田町の会の皆様の、日頃真田町にお寄せいただいたいておりますご指導とご支援に、心から敬意と感謝の意を表します。平成八年を顧みますと、真田町では、特に大阪の堺市などを中心に、全国的な広がりを持つ病原性大腸菌O-157の影響で、菅平高原の高原野菜に多大な損害を与えました。折角、経費と労働力をかけて立派に栽培した野菜が、出荷調整や価格暴落で

さて、本年は格別にも五月に真田町少年サッカーチームを、皆様のお取り計らいにより、三十七名の大勢の子供たちを東京にお招きいただき、都庁や神宮球場、国会議事堂とご案内賜り、更に盛大な歓迎会や東京ドームでプロ野球の観戦、世田谷の少年サッカーチームと親善試合と、子供たちは素晴らしい体験をさせていただきました。特に、中心的なご心配を賜りました中島正江様はじめ役員の皆様に心か

ら感謝申し上げます。この計画は、二月頃から理事、幹事の皆様が綿密な打合せ会議をもたれ、郷土の子供たちにお寄せいただいた熱意に感動いたしました。去る九月二十三日には、第九回の東京真田町の会の総会がアルカディア市ヶ谷で盛大に開催され、真田町から大勢参加させていただきました。特に、真田町入軽井沢の山宮久義氏の真田町の歴史、文化、気象風土に思いを寄せた「真田郷」の作詞が、真田町の「真田郷歌・舞踊保存会」の皆さんによって、舞踊の披露の機会を与えていただきました。当日は会員の大勢の皆様から貴重なお話やご提言を賜り、

町政に活かしたい極めて有意義な会でありました。本年も皆様との交流では、「ふるさと訪問」、「町民チャリティ・ゴルフ大会」、「そして会員の皆様個々のお立場から、多方面にわたってご指導ご支援を賜り、「東京真田町の会」があつてこそこのことで感謝に耐えないところであります。

一九九八年の冬期オリンピックも間近に、十一月十四日には、上信越自動車道が開通し、「上田菅平インターチェンジ」の名称も上田市の格別なご協力でマップに、更に来年秋には新幹線も開通し、いよいよ真田町も関西圏の位置づけで、文化、産業、観光にしても今後如何に「地方の時代」に相応しい「知恵と実行力」を発揮するにかかっております。

これからの地方自治は、その地方の文化、歴史、産業、伝統、そして気象風土を活かした個性豊かなふれあい、たすけあいの自助、共助の美しい町づくりにあると思います。特に昨年は、長野県の花いっぱいコンクールで最優秀賞の栄誉に浴し、本年は去る十一月二十一日に東京で



開催されました、第六回全国花のまちづくりコンクールで四年目にして全国二、五六四町村の頂点に立ち、全国花のまちづくりコンクール推進協議会長賞の栄誉に輝きました。町内三十六の各区の自主性と積極的な協力による組織的な取組が高く評価されました。こうした地域の人々が、自らの手で、自分の地域をふれあい、たすけあい、共々協調しあう心の姿こそ、本来の地方の時代の原点でもあると思います。

いま、盛んに地方分権、地方主権、地方の時代と言われていますが、自助努力による地域住民の協調の心豊かきこそ大切であると思います。二十一世紀に向かって、そんな町づくりを展開して参りたいと思います。東京真田町の会の皆様の愈々のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

真田町議会 議長



第九回会報発刊に当たりまして議会を代表いたしました一言ご挨拶を申し上げます。

先般の総会には会員皆さまが大勢ご参加され盛大に開催出来まして誠にありがとうございます。小林会長さん始め役員の方々のご努力で会が益々発展されておりますことに心より敬意を表する次第でございます。さて、私達が待ちに待った上信越道が開通となり愈々高速交通の時代へ突入いたしました。高速道効果を最大限に活用、産業文化、情報等の交流を盛んにして町の発展の為に大きな役割を果たすものと確信をいたしております。東京圏、関西圏との人と物の流れが急速に変化し新時代にはいりまして、真田町は東京圏の庭先であり奥座敷とも言えると思います。

議会の研修旅行で松本空港から福岡迄一時間半、その日の内に高速道を経て佐賀県の嬉野町

堀内 敬 (中横道)

迄行きまして観光行政視察が出来ました。又、先日研修旅行で伊勢神宮を参拝しましたが、晝食は伊勢でというように高速道効果は計りしれないものがあると思えました。

高速道の効果、良い面、心配の面が多く各々あろうかと思えます。良い面を最大限に活用することだと思えます。出来るだけの知恵を出しまして交流への受入態勢を整えなければと考えます。

町の社会資本の整備から環境整備は勿論ですが、宿泊施設の整備、空家の利用、或いは山林・農地の活用、公共施設の活用開放等、其の他いろいろと考えられます。日帰り客、滞在型の定着、歴史、文化、スポーツ等幅広く考えて行かねばなりません。二十一世紀の新時代に向けて大きく変わろうとしている吾が町皆さんのふる里でもあります。真田町の発展は共通の願いでもあります。今後共よろしくご指導、ご協力の程をお願い致す次第でございます。

終りに東京、真田町の会が更に発展され会員皆さま方の益々のご健勝で活躍をご祈念申し上げます。

私と菅平

私が菅平と出会ったのは、今から六十五年程前の、小学校四年生の時代でした。傍陽出身の飯島圭一先生に連れられ、友人数名と三日城ゲレンデに行った時が初めてでした。スキー板は桜材を用いた祖父の手製のもので、服装は和服に長靴、学生帽襟巻と、今では考えられない様な格好でした。当時、真田に住んでいても、菅平にまでスキーに行くことは、誰でもというわけではなく、物事が先行していたようですが、村のスキー場とはこんなにも違うのかと、驚いたものです。それから毎年冬になるのが楽しみで、友人等と往復四時間の道のりをスキーを担いで通ったものです。お陰でスキーの一級資格もとることが出来ました。又職場のスキー部を



軽井沢の山荘でくつろぐ木島 豊禮さん

木島 豊禮 (真田区出身)

案内して冬の根子岳に登ったことも、良い思い出となっていました。五年程前に孫らを連れ「ダボス」で滑りましたが、さすがに年齢には勝てず、体力の限界を痛感した次第です。また帰省の折り、初夏の爽やかな空気の中、牧場の牛の水飲み場付近まで登り、ワラビ採りに興じた事もありました。(今はワラビ採りの入山は禁じられていたとか) 冬も夏も私にとって、菅平は忘れられない存在です。

都庁に勤めていた頃、停年退職したら菅平でペンションを経営し、冬のスキー客、夏のスポーツ客を相手に余生を送りたいという夢をもっていましたがこの計画は実現出来ませんでした。しかしあの雄大な根子岳とその裾野に広がる菅平高原は忘れることが出来ず、南軽井沢に小さな山荘を建て、菅平のつもりで夏の山と森を散策し、時には庭で「クラブ」を振る今日この頃です。

最後に東京真田町の会の益々の発展を念じつつペンを置きます。

カラフルな

スポーツグッズの少年ら
爽やかにゆく 菅平高原

心に灯す宝物「故郷」

柳沢多喜雄（萩出身）

ふるさとを遠く離れて生活する者にとって、ふるさとでの幼き日に学んだ木造校舎、先輩たちが切り出しで悪戯に彫り刻んだ跡の残る、木の机や固い椅子の感触、入学式の頃の満開の桜、早春の山の木々のみずみずしい可憐な芽吹き、そして山菜採り。麦の収穫の頃の杏の甘ずっぱい匂い、うだるような暑さの中で蚕が一斉に桑を食べる音、かかん照りの桑畑から桑の実を採って食べたこと、洗馬川や傍陽川での水浴びや、カジカ捕り。秋の山での栗拾いや茸採り、その茸をいれた『ウチイレ』の懐かしい味、全山を鮮やかに染める紅葉、金剛山・実相院の境内から南方に微かに望める八ヶ岳や富士山の左裾……。やがて初雪がちらつく頃ともなれば肌を刺す大松風、大根や野沢菜を漬ける頃の大地を真っ白に覆い尽くす霜の朝、吐く息も凍るような寒気の中で霜柱を踏みつぶす一種の快音、雪の積もった北側の坂道は絶好の橇の遊び場と



柳沢 多喜雄さん

化し、ズボンのお尻をびしょびしょに濡らして帰宅、母に叱られたこと、赤々と燃える教室のストーブに、梅干しで腐食して穴のあきかけたアルミの弁当箱を乗せて温めたこと……。そして何よりも、これまでの年月を温かく育んでくれた忘れ得ない周囲の人たちとの関わり、物心ついた時から朝な夕なに仰いだ、太郎山や烏帽子岳を含む自然豊かな山河。そうそう、今は廃線となった洗馬川の鉄橋を渡る電車あの懐かしい響き等々……。何ひとつとってみても懐かしい想い出であり、歳を加えるに従いふるさとを憶う気持は更に強くなるようです。私にとって『故郷』とは生涯消えることなく私の心に灯す、思い出をたぐればいつでも、少年期に戻れる自分だけの『宝物』なのかも知れません。

そんな思いの中、私の関係している小さな川柳の句会の席題に「故郷」を出題、ふるさとを偲んでみましたので、次にご紹

介致します。ふるさとを憶う心情は、それぞれ故郷は違ってもみんな変わりはないようです。

敗者にも故郷の山はあたたかい

「故郷」 川柳の会

ふるさとの夕焼け恋し過密都市

弘

ふるさとを知らず都会で齢積み

弦耳

ふる里の森美しく鶯が舞う

君子

電話口余韻が残る国訛り

マサ

初対面さとの言葉に打ち解ける

一雄

行く度に様変わりする故郷の空

幸江

受話器から漏れる故郷の祭の音

紀子

両親が抜けた故郷は他人めき

五月

この土橋渡ると父母が眠ってる

瓦郎

迎え出る人無き里の墓参り

恵美

雪降ろし三度したよと電話口

弘美

鬼追いし歌えば心故郷へ飛び

瀧子

ほろ苦い想い出一つ故郷にあり

洋子

同郷の夫婦で子供まで訛り

小夜子

望郷の眼裏に棲む鬼ヤンマ

たきを

親睦ゴルフ会催

萩原啓治（四日市出身）

平成八年十月十一日（金）オリンピックカントリークラブにて親睦ゴルフ会を開催致しました。参加者は十五人でした。当初は二十人近く参加予定が有りました。参加者の最年長は木島豊禧さん（大正十年生）で、元氣一杯のプレーが感動致しました。新ペリアル優勝は飯島慶三郎

さんで（四十四、三十五）でした。又ベスグロでは堀内福さん（三十九、三十六）でした。次回は来年の春頃予定しております。今回は多数の方参加賜わたくお願い致します。御意見等御連絡お待ち申し上げます。



第一回 親睦ゴルフ会

おらが蕎麦



内海宏光（大庭出身）

世の中には蕎麦にまつわる話は多々ある。

風流を介するお方は…

信濃では、月と仏とおらが蕎麦

俳句

信州信濃の新蕎麦よりもわたしゃあんたの側がよい 都々逸
蕎麦代金を一文儲けようとして、余計に支払ってしまった「時そば」

落語

食い意地の張ったお方は左党のお方は…

かけそば、天婦羅そば、そば饅頭、そしてそば焼酎。

少々、通のお方は…

信濃（冬場が美味しい）の手打ち蕎麦、食後に飲む蕎麦湯、蕎麦がき。

右記のお話しはさて置いて、

本日は小生を育みし信州信濃の我が家で幼少の頃、今は亡きかあやん（母）が寒風荒ぶ師走の季に打ってくれた美味しい「手打ち蕎麦」をお話ししましょう。
・師走の凍みる日、朝食時の会

話「登場人物 とうやん（父）、かあやん（母）、ひろ（小生）」
とうやん…今朝（けさ）はえらく凍みるなあー。ひろがまたそばを食べたそうな顔をしているでー。今晚（こんばん）はそばにしてくれるかー？

かあやん…自分が食べてえくせにー。

とうやん…何んか言ったかー？
かあやん…何にも言わねえー。

しよねえない、それじゃー今夜（こんや）はそばでも打つかー。
ひろにも手伝つてもらうかー、なあーひろ？

とうやん…ひろー、今夜はそばだから昼間（ひるま）はあんまり食べねえで腹を空かしておけー。

ひろ…わー、今夜はそばかいー。腹（はら）すかしておくわいー。ぺちやぺちや（舌と唇の鳴る音）

夕暮時の蕎麦打ちの情景

夕方になると、始めに、鯉節のだしと自家製の醤油で、少々辛目の蕎麦つゆを作り鍋を軒下

に置き充分に冷やす。

辺りに芳醇な蕎麦つゆの香が漂い、私の腹は早くも鳴り騒ぐ。夕食時には、頃よく冷えている。かあやんが台所（板の間）の暗い裸電球の下、大きな「こねばち」に石うすでひいた地蕎麦粉を粉箱から大盛り一升程こねばちに取り、小麦粉をつなぎとして少々入れ（蕎麦粉と小麦粉の割合九対一）、少量のぬるま湯を注ぎながら混ぜ合わせ、両手で粉を固めようとする。

私もその日は、かあやんのエプロンを着て、先ず竈（かまど）に大きな一斗釜をかけ、割りつ木を燃し湯沸しをしながら次に言われることを待っている。

「手伝えー」の聲が掛り蕎麦粉をこね始める。私がいくら力を入れ、頑張つてこねても、粉は一向に固まらず、思わず「水をもっといれてー」とせがむが、「だめー！もっと力を入れてこねろ！」と怒鳴られる。身体中汗ばみ、頬に汗が滲み思わず「まだこねねえといけねえだかい」と聞く、「だめー！もっと力をいれてこねろ！」と、また怒鳴られる。

この時間は長く感じられるが、一〇〜一五分であろう。すると、突然粉が固まりだし、こねばちの中に粗々しい「蕎麦だま」が出来上ってくる。「早く、もっと

力を入れてこねろ！ちらばっている粉を集め、そばだまの真中に入れてこねろー早く！」それから一〇分もすると、艶のよい弾力性のある丸い蕎麦だまが出来上がる。かあやんが「ひろも力持になったにー、はいありがとう」と、蕎麦だまを「ぼん」と叩き笑顔で応える。

かあやんは素早く、蕎麦だまを「打ち板」の上で何回も麺棒に巻き付けながら大円形に伸ばして行く。短径約九〇cm、長径約一五〇cm程に薄く伸ばし切ると、麺を折畳み素早く、大きな包丁で「かたかた」と小気味よく幅二mm程度、長さ二〇cm程度に切り揃え、麺が出来上がる。

麺を暫く置き、煮えたぎる熱湯に放り込む。麺はその湯の中に沈み、暫くして湯上面に顔を出す。麺は釜中で回転しながら茹（ゆ）だる。二回ぐらい注ぎ水をし、麺の茹で具合を見ながら、頃合いを見て麺を「大ぼて」に取り上げて井戸の洗場へ運ぶ。

「ひろー、井戸水を汲めー」と言われ、私はポンプの漕ぎ棒を飛び上がりながら上下に漕ぐ。井戸からは、冷水がこんこんと汲み上り、かあやんは冷水に茹で上った麺を浸し、余計な粉等を取り除く為、軽く揉む。麺は冷水の中で締り、生き物のよう

に泳ぎ踊る。水中の麺をつかみ、「上げぼて」の中に子供のくるぶし程度の大きさの「ぼっち」を作り並べて行く。蕎麦ぼっち

は、薄黒い光沢を放ち鎮座しながら暫し水切を待つ。
食べる寸前に風味の「青大根おろし」と「きざみ葱」が出来上がり、後は食べるのを待つのみとなる。その頃になると、私の腹は遠慮無く再びごろごろ鳴り騒ぐ。

兄、姉らが農作業から帰り手足を洗い板の間の食堂に並ぶと、私は「今日のそばはおれが打つだよー」と得意気と言う。「本当か？」と聞かれると、むきになって「本当だー」答える。「ひろの打ったそばを味見するか」と言われ私は嬉しくなる。

先ず、とうやんが一番に麺に箸を入れて味見する。「うーこりやうんめいわ！」と唸る。

噛むのも惜しく喉へ流し込んだ際の喉触り、胃に落ち行く際の冷たい食道触りといった「この世にこんなうんめえー食物があるのか」と思える。べたうまさ！初めの二三個の蕎麦ぼちは、一気に胃に流し込む。「うんめえ！」思わず感嘆の声を上げ、につこりほほほ笑み周囲を見渡す。その後、やっと口の中で味わい蕎麦を食べ出す。胃が膨れに満腹感と身体中に寒さを覚え、お碗を持つ手も震えてくる。

ふるさと訪問道中記

中島正江（戸沢出身・旧姓 関谷）

八月三日・四日に行なわれた、ふるさと訪問はとても楽しかったので皆さんにお知らせします。当日早朝新宿集合、早い人は六時三十分過には集まり始め、七時すぎ出発でも一人来ません。さてその人は？川上年美さんです。清水さんは前回も遅れたからと云っておりましたので、この次からは冗談に三十分早くお知らせを出ししようと私達が話しておりました所、着物をお召しで来られ無事出発と相成りましたのもつかの間、渋滞でバスが進みません。幹事の方から自己紹介でも始めましようとの事、まず名簿順の佐藤ムネ子さんよりお願いします。佐藤さんはおむろにマイクを取り、あーあーとマイクのテストですが、声が聞こえません。たまりかねて隣



の席の荒木副会長さん「佐藤さん、マイクが裏表反対ですよ、いくらあーあー云っても聞こえませんよ。私も一応電気屋でしたからね、それ位の事は解りますよ」この件で車内は大爆笑、お互い気分もほぐれ、それぞれ自己紹介をしておりました中でも清水さんと三井さん、ご夫婦では始めての参加でした。幹事の堀内寿美さん、ずっと眠っておりましたが自己紹介の時だけ起きて「私は下町の玉三郎です」とか？私達は泥三郎と呼んでいますよ。車も八王子インターを過ぎる頃には走り出しました。諏訪インターでと思っていきました昼食が、レストラン混雑のため売店でおやき、だんごになりずし、さつまあげ等々皆んなで一品づつ、つまむのも又楽しいもの、特におやきはおいしかったです。次は、姨捨インターで小休止。

川中島、千曲川の流れ、長野方面の展望がすばらしい。おせかけや妹ひとりなく月の友うばすてや月をむかしのかみなる。夕月や仏のやらの膝をくみなる石標あり。

昔は口べらしのために老人が

山に置かれたと云う伝説があり、悲しい事です。

約三時間遅れの小布施、葛飾北斎館等見学。すばらしいの一言、須坂の街を通りぬけた所で雷の話になり、昔はどうして麻のかやの中へ逃げ込んだのかしらと私。清水物知り博士？麻は電気が通りやすいので、その中にいると麻は電気を吸い取り自分の所には落ないと、又これも勉強、「まーず清水さんは良く知っているねえ、たまげるわいなあー」

ふる里が近づく、だんだん田舎の言葉がしゃべりたくなる。地蔵峠に向って行く両側を見て、「あつ、いちごだ、取りたい」バスは止まってくれません。「ジャムにすればいいになえー、もつてねえー」とため息。次はトマトが畑に放置されていたように見えました。「あんなにいっぱいもつてねえーどうして取らねーだい」と両側見るもの、きよろきよろ、わいわい、荒木さんがみかねて「この坂を越したら峠の向うに幸せが待っているよ」と。何んか歌の一節みたいですねと大笑い。真田町役場へ無事十七時到着。

一休する間もなく町長さん始め役場の皆さんお出迎え、会合では山家神社の改築の話、真田町との交流等いかにしたら良いか町に望む事などむずかしい話



にもなりましたが、短い時間ではとうてい語り尽くせないです。久しぶりに宮島貫吾さんにお目にかかりあらもあれ、正江ちゃんかえまあよく来たに：貫吾さんもお元気でと心がはずみます。総合運動場では、真田郷踊りや盆踊りやら始まっています。子供みこしは子供達の手作りだそうです。とても力作ですね。

私の甥のわたるも中一です。先頭でワッショイ、ワッショイやってみました。

今世間では「いじめ」の問題等で話題になっていますが、こういう行事を通して親どうしも仲良くなった相互の連絡が出来たりしたらいい問題も少なくなるように思いますが、私もPTAの会長経験もしましたが、学校、地域、保護者、一致団結していじめ等をなくすばらしい学校生活が送れるように皆さんでバックアップしてあげて下さい。

真田まつり最後のイベント花火、打ち上げるたびに空を見上げ又星空のきれいな事、空気がきれいなんだなあーとしばし見つめ、田舎で生活していた頃を思い出しながらすばらしい花火を見せて頂きました。ありがとうございました。なごりを惜しみながら宿泊先菅平へ向かいました。

一夜を過し、朝の清々しい空。東京へ返ってくるのがいやになっちゃうようです。菅平出身の川上さんの実家より沢山の花を頂いて来たのに女性の皆さんに分けて頂きありがとう。菅平より帰りのバスの中で参加された方達より一言感想を聞きました。

●佐藤ムネ子さん（真田）

始めての参加でした。夕方の花火に感動しました。

●塩崎武男さん（大畑）

自然が豊かで又お水が美味しかったです。今年は親戚の人に会えて良かったです。

●塩崎雪子さん

毎回新しい人に会えて良かったです。

●塩崎富さん

盛会になることを祈ります。

●中村祥子さん（田中）

二回目ですが真田町との懇親会はむづかしい話をぬきにしてざっくばらんにした方が良いでしょう？



●坂口弘子さん（横浜）

何年振りかのふるさとを見て東京に帰りたくないような気持ちです。自然も豊かですしね、うれしかったです。

●石橋敏子さん（竹室）

初めての参加何十年ぶりのふるさとを見てうれしかった、今度は友達さそって参加をしたいです。

●荒木孝一副会長（真田）

私は旅が終りに近づくとしなくなるが、毎回出席して下さっている人もいるが、他の皆さんを多くさそって盛会になるようにしたいので、参加をして下さい。

●山口元彦さん（横浜）

企画は青壮年部がやっておりますが、萩原啓治さん堀内寿美さんお手伝いして下さいありがとうございます。なんとか皆さん喜んで頂けるようにしたいです。

いと思っております。次回もよろしく願います。

●堀内寿美さん（上横道）

ご無理をお願いしましたが来年も一人でも多くの方に参加を望んでおりますので良い意見があればご提案下さい。

●三井芳郎さん（大庭）

家内にはさんざん苦勞をかけた。母と父が七年間入院退院を繰り返して看病したのでどこへも連れて行かなかった。（お母様が二年前、お父様が今年五月、他界されたそうです。ご冥福をお祈りします。）恩返しのため今度今度ふるさと訪問と一緒に来ました。私は三回目です。

●（外野の声）ふる里訪問だけでごまかすな外国旅行にでも連れて行ってあげないといけないよ」

の声あり。

●三井奥様

初めての参加、七年間看病をしていて家を空けられなかった二人でふる里訪問に参加をして花火見物は心の底からリフレッシュ出来ました。ありがとうございました。

●清水清晴副会長さん（中横道）

会員の参加が少なくて淋しいので、次回からは是非多くの人の参加を願います。清水さんは真田町の会よりの参加が少ないので、狛江市の県人会の皆さん6名をさそって下さり人数をふやして下さいました。皆さん町長さん初め役場の皆さんと親し

くしておられました。小諸出身の人（池田たつ子さん）がおりましたが他ではこんな良い事はないそうです。羨ましいと云っておりました。

●清水奥様

始めて主人と参加をさせてもらいました。今迄犬がいましてので二人揃って出掛けられなかった。犬も十六年の寿命でいなくなり淋しくはなりましたが二人で参加させて頂きとても楽しかったです。

●萩原啓治さん（四日市）

毎回出席してありますが自分の育ったふる里を大切に、もつと楽しく行きたい。

●中島正江（戸沢）

今回始めて参加し、とても楽しいバス旅行、真田町の言葉が自然と出て来たり、友達に会えたり、肉親に会えたり、役場の皆さんとも知り合いになり良かったです。五月に少年サッカー交流した子供達に会いたかったですが、みづかりませんでした。この次は多くの人が参加しよう。おい、こんだき皆さん一緒にいけやなあー

●注：トマトの熟して置いてあるのは、トマトジュースにするので真っ赤になるまで庭や木の下に置いてあるんだって。捨ててあるんじゃないかと兄が云っていました。

こんな感想を述べながら真田町のお屋敷の資料館、真田幸村



展など見て休憩所では、その日の販売数のおはぎを全部食べてしまいました。特にくるみのおはぎはとても美味しかったです。次は軽井沢の塩沢湖へ、夏休み中なので人でいっぱいでした。帰りのバスの中では、ジャンケンで賞品がもらえると云う事で一生懸命ジャンケンをしました。五回もやって商品ももらえなかった荒木さん残念でした。「あ、おれは運がないよ」と嘆く荒木さん。次回を楽しみにしてください。

今度は「ジャンケンには必要ありません」と三井さんがマイクを持って立ちました。「入れ歯の人にはい、物差し上げます。手を上げて下さい」七人八人しか上がりません。荒木さんが「三井さんは一番いやなこと聞かえ、そこで大笑い。「それでは自分か家族に入れ歯のある人手をあげて下さい」「だんだん手があがり二十人に入歯洗浄剤タフデントが配られました。今回のふるさと訪問のバス旅行では最高齢者七十八才で、二十三人

中十五人が六十五才以上でありました（想像）。

バスが都心に近づくにつれて少し渋滞してきました。「こらでクイズの問題を出したい」と塩崎博士？から十問中正解は五問でした。その中の一つ紹介します。「身体の中で、一つが百二十グラムで二つあるものな〜んだ？」皆さんご想像ください。私はちよつとエッチな発想をしてしまいました。男性のみならずみません。そんなに軽くはないそうです。こ、で又大笑い！

ごめんなさい答は最後に。高速で一路東京へ、妙義山の岩肌又両側に咲く萩の紅白の花がとてもきれいでした。帰りは道路もあまり混まずに無事午後五時頃新宿へ到着、お土産の重い荷物を持ちそれぞれに別れを惜しみながら家路に着きました。幹事の皆さんにおつかれ様お世話になりました。又楽しい旅行しようね！十月過ぎの紅葉の季節もいいかもよ。

皆さん次回は大会に参加しましょう。楽しいバス旅行でしたよ。道中記はこれで終了です。なお狛江市の県人会でご参加下さった、有賀邦幸、池田たつ子、鹿志村良子、鹿志村外史、森田登、馬場文成さん達にもお聞きしましたが割愛させて頂きました。参加者一同から金一封もいただきました。（クイズの答は目玉でした。）

第九回総会と懇親会 事務局

平成八年九月二十三日正午よりアルカディア市ヶ谷に於て第九回定期総会と懇親会が開催された。総会には真田町から若林町長他二十九名、東京真田町の会会員百二十三人、合計百五十三人が出席されました。

総会は関谷義久理事の司会で進行しました。最初に真田町歌の指導者若林秀三先生の音頭により県歌「信濃の国」を二番まで斉唱し、小林会長の挨拶、つづいて若林町長の挨拶を頂き議事に入った。議事の最後は役員改選であったが候補者全員が再選され留任となりました。

懇親会の部では中島正江理事の総合同会によって進み、先ず塩沢副会長の歓迎の言葉、荒木副会長の来賓紹介、続いて堀内敬議長の祝辞、井出正一代議士秘書市川源太郎さんの祝辞があり、山家神社建立委員会を代表して大塚晃一さんのご挨拶と続き、春原悦夫副議長の乾杯によって懇親会に入った。会場は若林町長、中村助役、古居収入役をはじめ、御来賓の皆さんと東京真田町会員との話がはずみにぎやかになった。

今年のアトラクションは「真田郷」歌と舞踊が東京で初めて披露されました。小川博保存会

会長率いる一座九名が総会に花を添えてくださいました。アトラクションの司会進行は、堀内律夫保存会副会長によって行われ、先ず小川博会長の挨拶があり続いて、真田郷歌の披露は若林秀三、堀内ふみ江、小林万左子先生、真田郷正面踊りは平林和子、松尾玉江、清水はま、長崎伊登子先生、続いて若林先生の草笛で「ふるさと」「荒城の月」が独唱された。又歌「浅草姉妹」、舞踊「信濃の国」が披露され、真田郷輪踊りの披露もあり、壇上に場内にと輪を作り、先生方の指導で会場は一層盛り上がりしました。

この間に作詞者小宮山久義さんの祝辞が長崎伊登子さんによって代読された。更に東京真田町の会より真田郷保存会の皆さんに花束贈呈、小川博さんに在京の小学校同級生より花束贈呈がありました。

午後三時も過ぎた頃、深町共栄理事の閉会のことば、荒木孝一副会長の真田町万才、合葉啓町議会総務委員長の答礼万才によってお開きとなり、会員は真田町からのリングや茸のお土産を沢山いただいて帰路につきました。



祝辞

本日は、平成八年度第九回東京真田町の会の総会が盛大に開催されまして誠にありがとうございます。このおめでたい総会の御席で、私が作詞を致しました「真田郷」の歌と舞踊をご披露頂きます事は、本当に幸せな事と心より感謝と御礼を申し上げる次第でございます。「真田郷」は未熟な作詞ではございますが、真田町のそれぞれのお立場の方々の御指導を頂きまして完成をさせる事が出来ました。

私達の故郷、そして真田氏発祥の地を愛する心から生まれました真田郷の歌と舞踊を永久に保存をして頂き直一層の普及にと努めて頂いております現在でございます。

東京に在住しておられます皆様におかれましては、なつかしい故郷をこの詞を通して思い出しておしていただき、又私達の故郷が、真田氏発祥の地であるという事に、誇りを

お持ちいただけたらと、心より念願するものでございます。

今後共よろしくご愛顧の程お願い申し上げます。東京真田町の会の今後増々の御発展と、本日ご列席の皆様のご健康を、ご祈念申し上げまして簡単ではございますが、作詞を致しました山宮久義からの御祝辞とさせていただきます。

代読 長崎伊登子

真田郷・歌と舞踊が始めて東京の総会会場で披露されました



サッカー交流会でふれあい

真田町少年サッカー団 コーチ

木島久文

東京真田町の会の皆さま、こんにちは。五月二十五日、二十六日にかけまして、真田町少年サッカー団が東京での交流会に招かれましてたいへんお世話になりました。

小林会長はじめ役員の方々にそれこそ親切丁寧にご案内いただき、また二日目には世田谷区玉川スポーツ少年団の皆さんとのサッカー交流会で元気に走り回り、いい汗を流すことができました。親戚の方が応援に見えたり、玉川スポ少の選手と話が盛り上がったりと、真田町の少年達にとりましてたいへん有意義な二日間であり、生涯忘れられない思い出になりました。ありがとうございました。また、これを契機に交流が続けば、と切に願うものです。

紙面をお借りし、真田町少年サッカー団の様子を紹介したいと思います。

教育委員会の主催する真田町スポーツ教室の一つとして活動しています。メンバーは三年生から六年生まで総勢六十五名の大所帯です。各学年を二名のコーチが担当し毎週日曜日に練習をしています。六年生主体のAチームは各種大会に参加します。特

に平成五年の秋の県大会では九十チームを超える参加チームの中で準優勝を、平成六年の同大会で第三位になるなど好成績を残すこともできました。

東信地区は県内でもサッカーの盛んな地域ですが、Jリーグ人気で連盟に加盟するチームも年々増え、今秋行なわれた第九回東信カップには二十二チームの参加がありました。真田町少年サッカー団は、この大会に初回から参加しており、平成五年・六年・七年と三連覇を果たしました。今年は惜しくも第三位でしたが、東信地区では強豪の仲間入りをしています。また、保護者会が平成二年から発足し、大会参加の車の手配、応援にと大きな力となつて協力いただいています。試合では選手以上に盛り上がるのが応援に行つた保護者の皆さんです。一点をとるために必死に攻める選手を、一点もとられまいと体を張って守る選手にそれこそ必死になって応援する親たちの姿

が選手の励みになり、普段以上の力が発揮できます。たいへんまとまりがあるのが真田町少年サッカー団です。

これから、少年たちが成長する過程でいろいろな人と関わりをもたなければなりません。比較的的地域に閉じこもりがちな真田町の少年たちですが、今回の交流会など町を離れたところでのふれあいを数多く体験することですし、身につけてほしいと願うとともに今後とも皆様方と交流を深めていきたいと願います。今後ともよろしく願います。



木島久文さんは総監督として来られました。
傍陽郵便局長をしておられます。

お礼の言葉

真田町少年サッカーチーム保護者代表

小林 正司

新緑の色増す季節を迎えました。皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととご拝察申し上げます。

信州でもようやく初夏を感じる今日この頃です。今年の冬は寒さも厳しく大雪でした。その影響が春の訪れが遅くゴールデンウィークに雪が舞うなど、草木の芽吹きや花の開花も例年より2週間程遅れています。田植えのシーズンを迎え農家では大忙しです。

先日は、真田町少年サッカー教室の子供たちを大勢お招き頂きましてほんとうにありがとうございました。思いがけない企画をしていただき、参加させていただいた子供たちは大変感激しております。

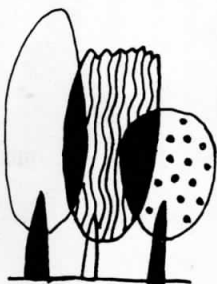
昨年は数々の大会で優勝し、コーチの方々の指導の向上と子供たちのレベルアップが伺えます。しかし今年の6年生は1チームぎりぎりのメンバーしかおらず、なかなか厳しい状況ですが、後に続いてくれる子供たちが大勢いますので期待が持てそうです。

今年も、六月二日の東信リーグ戦を皮切りに数々の大会が控えています。毎週日曜日には全員が参加し練習に汗を流しています。

東京に伺い、東京の子供たちとの試合の中から学んだ事を生かし、今年も昨年に引き続き、数々の優秀な成績を残してくれる事でしよう。

皆様方が、こちらにお越しの折には、真田町少年サッカーチームの事を思い出していただきたいと思います。

ほんとうにお世話になりました。皆様方の益々のご活躍とご繁栄を祈念いたしましてお礼の挨拶とさせていただきます。





真田町少年サッカーチーム・東京都庁前にて

真田町少年サッカー選手
東京で善戦



東京・真田、少年サッカー交流会までの大略

清水清晴(中横道出身)



本年一月三十一日の理事会において、会報「日本ダボス」第八号に、投稿戴いた、町議会堀内敬議長の「町に東京の会の拠点を作り、町の人々と交流の場

所が必要かとも考えます、気楽にふる里に帰り自然の環境のめぐまれた地で過ごせる日々は楽しいと存じます」の文面が話題となり討議された結果、小林会長より「今年、町との交流をしよう」と提案され、数件の案も出ましたが、「少年サッカーの交流はどうか」と中島正江理事より話が、中島理事の尽力により、競技場所、宿泊施設の確保、地元世田谷少年団父兄のご協力を得る事が出来たので、五月二十五日・二十六日の両日

少年サッカーチームの交流会の実施をすることになった。事後は三井会計理事が窓口となって、電話、ファックス等で、真田町と連絡をとる、一方、飯島慶三郎理事が、後楽園飯店での夕食、東京ドームの野球見物の入場についての手配をして戴き、四月二十四日総まとめの理事会を開催、交流会実施が最終的に決

まった。真田町より、振興公社、高寺昭三郎事務局長・営農推進部、小林徳雄部長と局長代理補佐大久保薫の三氏が真田町特産品のPRのため出席され、詳細をお聞きいただいた。

五月二十五日、東京真田町のは、小林孝雄会長・清水清晴副会長・三井会計理事・山口元彦青壮年部長・中島正江理事・飯島義道理事・荻原啓治理事・堀内寿美理事の八名が都庁前広場で出迎えた。十二時三十分過ぎ、真田町役場事務局関係として、情報政策課、押森弘文課長補佐と宮崎忠博の両氏の外、監督、コーチ、木島久文・中野俊博・樋口正・宮島渡・坂口和法の五氏そして、選手六年生、中村連キャプテンほか八名五年生、

大島大介キャプテンほか二十名を乗せたバスが到着、記念写真撮影後地上二〇二メートルの、都庁展望室へ登る。東京の街を一望するとともに、ふるさと真田町の方面に指さして一時を楽ししむ見学、その後神宮外苑、NHK、国立競技場、国会議事堂などを車窓から見学することに

して出発。後楽園飯店に十六時前に到着し歓迎会を挙行、小林会長の歓迎の挨拶、そして当日の出席者の紹介、監督、コーチ代表の樋口正さんが紹介し、町代表押森弘文課長補佐の挨拶「ふるさととは五官で感じるものであり、誇りを町全体に積み上げる努力をしております。思い出していたいただきたい」の返礼のことばでした。

チビっ子達は一テーブルに十人くらい組になって腰かけて食事、約一時間の食卓、十七時三十分、野球観戦のため、徒歩で東京ドームへ、二十番ゲートより入場着席、当日は沖縄デーで、球場内でアトラクションとして、沖縄の踊りと唐獅子の舞を拝見し、野球は日ハムとダイエー戦を、宿舍の都合で十九時五十分

まで観戦二十時東京ドームを後に宿舎世田谷区青年の家に向かい一泊、二十五日九時にバスで玉川中学グラウンドへ、九時五十分、各チーム、校庭に集合お互いの挨拶とおみやげ交換、つづいて小林会長の挨拶そして、東京真田町の会より玉川チーム・中町チームに、サッカーボール各一ヶを贈呈、真田町チームにサッカーボール三十ヶを贈呈し、十時より、真田チームはA・Bに別れて十四時まで六試合をしたが、真田チームは奮闘し善戦した。十五時近く、玉川チーム・中町チームの見送る車窓より「おいだれも真田にこいやおらーまってるで」などと親密感を方言と態度に出して帰郷の途についた。

おらが蕎麦(五頁より)

「うー、うんまかった、ご馳走様」と言いながら冷えた体を温かい炬燵に運び、背中から潜り込む。台所から「うで湯が暖まったよう」と、かあやんの声が聞こえる。直ぐに飛んで行きうで湯を「ふうーふうー」言いながら飲む。冷えた身体中がじよ

じよに暖ったまり、幸福感に浸る。浸けつゆ、蕎麦打ち、ぼてに並んだ蕎麦ばっち、風味のおろしときざみ葱、そしてうで湯。これらが一つに醸成して、我が家の「手打ち蕎麦の味」となる。言い換えれば我が家の「味の文化」と言えよう。

家族全員で蕎麦を美味しく味わった時代から歳月は過ぎ、今は父そして母も遠へ逝ってしまつた。しかし、あの頃の「手打ち蕎麦」の美味は、実家を守っている兄、そして姉様に引き継がれ脈々と現在に伝えられている。私が帰郷すると、兄が「ひろはそばが好きだったな、おまえは本当に美味そうに食べてくれて作りがいがあるわ。たんとたべれよー」と言い、地蕎麦粉で蕎麦を打ってくれる。私は「ありがとう」と感謝し、手打ち蕎麦を味わいながら「この美味と一家団らんの家族の暖かいつながり」が子々孫々に引き継がれていくことを願って止まない。

大蔵省の輸入統計によると、蕎麦の実の平成六年の全輸入数量は十万四千三十九トンとなり、数量では過去最高となっている。我々が巷において、元祖信州手打ち蕎麦などと称するものを食べているが、大部分、外国製と言う現実を鑑みると、何か、「こそばゆい」感を覚える。

あづま茸奮闘記

中島正江 (戸沢出身・旧姓 関谷)

十月十九日玉川中学校(世田谷区立)五十周年記念事業の収益金を得るためバザーを開催するとの事、少しでも真田町の皆さんの役に立てばと思い、東京真田町の総会の折に頂いたあづま茸を売ってみようと思い、最速振興公社に電話注文。りんご15箱、あづま茸四〇〇パック、えのき茸、なめこそれぞれ四〇〇パック合計金額二十二万三千五百円真田町振興課の職員の方が練馬区光が丘に十六日上京するとの事、送り賃が大変なので一緒に持って来て下さるとの事。少し早すぎると思いましたが節約して。夕方着きました。きのこ類が十九日迄にだめになっってしまうので、教頭先生にお願



真田リンゴ・キノコ売りで奮闘中

いして校長室の隣の和室へ全部運び込み、クーラーで調整をしておく事にしました。十八日には私のテニスクラブへ少し持って行き試食させたのち一〇〇パックづつとりんご二箱はあつと云う間に売り切れました。十九日にはきのこもりんごも無事。皆さんはあづま茸を見た事もないので売るのは試食用を作って行かなければなりません。朝からバター炒め。ホーレン草も入れてね。とても上手に出来ましたのでバザー委員の皆さんに試食させてから、いよいよ開始。説明しながら、片手に試食用のタッパに入れてたものを持ち、手八丁口八丁。ぼつぼつ売れ始めて行きます。りんごは早めになくなりました。一〇〇パックづつぐらいいりましたので、家に帰ってから友達に片っぱしから電話。皆欲しがっていますので、二十日の日は選挙の投票済ませてから自転車にのせてかけ廻りました。

友達もかけつけてくれて商店街中売り、残りにはテニスクラブの昼食会で、いつもは二十人分ぐらい作れば良いのにレストランを借りて三十人以上作ったでしょうが、「とてもおいしいよ、このきのこはめずらしいきのこのね」と味噌汁はえのきにためこ、家庭では一袋使うのももったいないと思ってるのに今日はみなさんの中はきのこのだらけで皆さんどんぶりで味噌汁を飲んで下さった、大なべで二つ作りました。食べた後は買って帰って下さい。ご主人方は「今日は家でかあちゃんに作ってもらった」と買って帰る人「今日はスパゲティにこれを入れて作ろう今日の夕食はこれでよし」と奥様方でもまだ残っています。私は夕方友達のお寿司屋さん、居酒屋さんに米屋さんへと走りまわりました。

名簿の訂正 (敬称省略させていただきます)

入会者

関谷道義	〒154	世田谷区三宿2-36-5	03-3422-7861
大坪はる子	〒108	港区高輪1-4-38-507	03-3444-2476
岸敏子	〒189	東大和市蔵敷3-691-2-ロ-6-302	045-630-7534
田中稔治	〒177	練馬区上石神井南7-15	03-3928-5578
小林立深志	〒270-11	我孫子市並木9-21-3	0471-83-3806
真芝邦子	〒262	千葉市花見川区猿橋1612-91	043-257-3585

住所変更

千須和黎子	〒135	江東区木場5-8-41-909	03-3643-8768
広川雅子	〒274	船橋市前原西1-31-1-820	0474-71-9011
高畑悟郎	〒284	佐倉市春路2-27-10	043-486-0577
小山礼子	〒263	千葉市稲毛区宮野木町1026-27	043-256-5846
正木とみ子	〒166	杉並区高円寺南3-57-5-702	03-3315-8289
大久保香代子	〒336	川口市本町3-2-25-602	
北爪武夫		横浜市青葉区奈良町1566-466	045-962-8901
白井健次	〒115	北区赤羽西3-28-10	03-3909-2204
武藤園子	〒330	大宮市東大宮7-50-2	048-683-4187
小島君	〒336	浦和市常盤9-10-13-203	

脱会者

半田秋雄	柳川恵子
柳沢幸子	中田昇平

死亡者 (ご冥福をお祈りします)

野口幸	荻原良知	小林正人
坂口進	花岡博	

祝 東京真田町の会 一会報 9 号

東京で躍進を続ける 真田不動産グループ

1F ●特選輸入洋品 ●総合不動産業 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411
株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
2F 貸事務所 (歯科医院)
3F~6F IMPERIAL HORIUCHI (賃貸マンション)

株式会社 真田不動産

代表取締役/堀内 政

(真田中学校上・元あさひ堂出身)

東京都足立区綾瀬6-30-8 〒120(WAKO真田ビル1階)

自宅: 足立区青井4-4-10 ☎03-3840-3211



WAKO真田本社ビル 1988年完成



IMPERIAL青井 1993年完成 (当社施工物件)



IMPERIAL綾瀬 1996年完成 (当社施工物件)

SANYO DENKI

これからも皆様と共に歩んでいきます。

当社は上田市周辺に5工場を有し、従業員も2000名となりました。
真田町からも約130名の方々にご協力を戴いております。
これからも山洋電気は常に皆様と共に発展を続けたいと願っております。

主要製品



●サンエースファン



●ステッピングモータ



●DC、ACサーボモータ
各種制御装置



●無停電電源装置
電話局用電源装置

山洋電気株式会社

相談役 横沢 新二郎 (荒井出身)

上田事業所 長野県上田市緑が丘1-1-7 ☎(0268) 22 8585 (大代表)
緑が丘工場、塩田工場、築地工場、青木工場、富士山工場

本 社 東京都豊島区北大塚1-15-1 ☎(03) 3917 5151 (大代表)

祝 東京真田町の会 一会報9号一

東京真田町の会 副会長 荒木孝一 (真田出身) 〒188 東京都田無市向台町一七七一三〇 TEL (〇四二四) 六三二七二〇九	東京真田町の会 理事 飯島慶三郎 (下原出身) 〒180 武蔵野市吉祥寺東町二一三三二一八 TEL (〇四二二) 一一八五九四	土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地調査士 飯嶋義道 (中組出身) 横浜市鶴見区梶山一三三八一十一 TEL (〇四五) 五八一〇三二四 TEL (〇四五) 五七一五〇五五	国際浮出印刷株式会社 代表取締役 飯嶋徳麿 (中組出身) 川口市芝四八七九 TEL (〇四八二) 六五一二三七四	東京真田町の会 理事 石垣節子 (曲尾出身) 東京都北区十条仲原三二二一七 TEL (〇三三) 三九〇〇一八六三三
東京真田町の会 理事 大久保治夫 (大日向出身) 〒192-03 東京都八王子市松が谷二五一一一〇三 TEL (〇四二六) 七七七一三	東京真田町の会 理事 一級建築士 荻原啓治 (四日市出身) 〒168 東京都杉並区和泉四一四二一三三〇一 TEL (〇三三) 三三一五五九三〇	東京真田町の会 理事 倉島保男 (角間出身) 〒168 東京都杉並区和泉三一六〇一二六 TEL (〇三三) 三三二八一五二二	貿易物流研究所 所長 小林孝雄 (曲尾出身) 〒234 横浜市港南区日野四丁目四五五 TEL (〇四五) 八四三一八〇四一	勝田電設工業株式会社 代表取締役 塩沢和政 (大日向出身) 東京都江戸川区西小松川町三七番二号 TEL (〇三三) 三六五一八六七六代
東京真田町の会 副会長 清水清晴 (中横道出身) 東京都狛江市東野川三二二二二 TEL (〇三三) 三四八九一〇七六三	峰岡町一丁目町内会 民生委員・児童委員 会計 田中恒夫 (横尾出身) 自宅〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一八九三 電話 (〇四五) (三三三) 三九八二番	東京真田町の会 理事 塚田恒雄 (横尾出身) 千葉県柏市西山一十一一十八 TEL (〇四七一) 七五〇八二二三	メナード化粧品 等々力駅前代行店 東京真田町の会 理事 中島正江 (戸沢出身) 〒158 東京都世田谷区中町四一三五一十七E TEL (店) 〇三三七〇五九六八五 (家) 〇三三七〇二一三八五	ロシア料理 渋谷ログスキー 副社長 調理部長 長屋京子 (菅平出身) 本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F 渋谷区桜丘一六一三三三和田ビル2F TEL (〇三三) 三四六三二一九一

祝 東京真田町の会 一会報9号一

八洲グループの車は今日も 信濃路を走っています

八洲輸送株式会社

代表取締役 横澤正晃
(大畑出身)

埼玉県和光市松ノ木島町6-4

TEL 048 (468) 2121(代)

FAX 048 (466) 9919

(グループ会社)

(株) トウキョウ・ヤシマ

(株) オオミヤ・ヤシマ

(株) ワイエムエンタープライズ

旭 運 輸 (株)

真 和 商 事 (株)

(株) ミ ツ ワ

富 士 興 業 (株)

(株) ジェイ シ イ エル

(株) タマ・ミルキーウェイ

(株) トーヨー運輸

(株) イケシヨク

(株) コーエイアソシエツ

協同組合八洲物流グループ

(株) 東京マネジメント・コンサルタンツ

〒231 横浜市中区日本大通18 KRCビル
(大栈橋通り)

TEL 045(662)1201 FAX 045(662)1414

日本では高齢化社会の到来が、世界に前例のない速さで進行しています。このため国民の保健衛生に関する施策と病院・診療所の経営が激しい変革の並にさらされています。こうした状況の中で、当社はお医者さんが不安なく診療に専念できるよう、病医院の経営面をサポートするため、首都圏全域にわたりコンサルティング活動を行っています。

(所属グループ)

社団法人日本医業経営コンサルタント協会
神奈川県支部支部長

税理士と公認会計士の組織TKC神奈川会

パートナー制による税理士等の事務所代表パートナー

関 谷 義 久 (戸沢出身)

自宅 〒211 川崎市中原区
小杉町1-403-4 パロス 103

TEL 044(711)0055

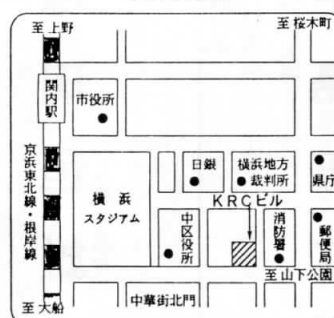
(株) TKC東京パートナー会計事務所

〒211 川崎市中原区小杉町1-403
武蔵小杉STMビル(武蔵小杉駅正面)

TEL 044(733)1101 FAX 044(733)1102

世界各国の政治経済動向が私達の生活に直接影響を及ぼすまでに経済はグローバル化しています。景気の好・不況の繰り返えしの中で、不況時に真先にその直撃を受けるのが中小企業です。当事務所はその中小企業の基盤強化と経営発展に貢献することを信条として活動しています。

横浜事務所



川崎事務所



祝 東京真田町の会 一会報9号一

(株)アップルサイエンス (コンピュータ関連) 代表取締役 社長 山岸 栄 本社 真田町 傍陽 五〇八五 営業所 埼玉県入間郡毛呂山町川角二〇九六 電話 〇四九二一九四一六三四八	埼玉工業大学 工学部電子工学科教授 東京真田町の会 理事 深町 共榮 (田中出身) 〒366 深谷市上柴町西五〇七七八二 TEL (〇四八五) 七二一七一五〇	東京真田町の会理事 司法書士 堀内 寿美 (上横道出身) 〒151 東京都渋谷区代々木二二〇一〇一九 東洋ビル四〇二号 TEL (〇三三) 三三七九一九八二	株式会社東部財務情報センター 堀内税務会計事務所 堀内 茂雄 (中横道出身) 〒130 東京都墨田区業平四一九一三 TEL 三六二五一一二九一 FAX 三六二二一〇一六四	火災・傷害・自動車保険代理店 堀内 寅次 (中横道出身) 〒330 大宮市東新井九三九一六四 TEL 〇四八一六八五二八二 FAX 〇四八一六八七一九一二
国画院会員 日本選抜美術家協会委員 画家 森本 幹生 (入軽井沢出身) 川崎市中原区小杉陣屋町一六八 TEL (〇四四) 七三三三〇二六七	新お茶の水法律事務所 弁護士 山口 元彦 (横沢出身) 〒101 千代田区神田淡路町一〇九一 ニューお茶の水ビル七〇二号 TEL (〇三三) 三二五五七九六一 FAX (〇三三) 三二五五七九六〇	長野県人会 (御殿場市・裾野市・小山町) 顧問 柳 澤 喜三郎 (萩出身) 〒412 静岡県御殿場市川島田七四八二 電話 〇五五〇一八三三〇八二	社会保険労務士 三井 周 (大庭出身) 自宅 東京都江戸川区篠崎町三一九一九 TEL・FAX (〇三三) 三六七七一三六三六	東京真田町の会 会計理事 三井 芳郎 (大庭出身) 〒156 世田谷区船橋一四八一三一 TEL (〇三三) 三四八二一九三三三

育ててください
ふるさと結ぶホットラインに
*ふるさと宅急便
*特産物の開発・販売

長野県小県郡真田町大字長七一七八番地の一
財団法人 **真田町振興公社**
理事長 **若林 康朗**
TEL (〇二六八) 七二二二二〇〇
内線 二六二

真田温泉健康ランド ふれあいさなだ館

〒386-22 長野県小県郡真田町大字長7369-1 TEL.0268(72)2500
有線 2230



近況報告

荒木孝一さん

「ふるさと訪問」無事に終了して参りました。皆様方大変に喜ばれて、何よりだと思っております。不取敢御報告を申し上げます。若林町長からもよろしくとの御伝言でございました。

佐藤ムネ子（真田出身）

総会では同級生の方、真田町の方々に会う事が出来て本当にうれしく特に親戚の宮島貫吾さんとの出会いはなつかしく思いました。小林会長と貫吾さんは同級生との事、世間は狭いですね。「東京真田町の会」に入会して良かったと感じました。その陰には役員の皆さまの並ならぬ努力があればこそと深く感謝致します。私は現在は二人の子供も大学を卒業して会社勤め孫も二人います。また来年は次男の方に二番目の子が生まれます。自分はこれからの第二の人生を旅行などとして楽しく暮らしたいと思っています。

堀内照雄（三島平出身）

一昨年定年退職し現在悠々自適の生活をしております。皆様によろしく。

和田末子（荒井出身）

五月に体調が悪く入院をして今は元気になりましたが八月十八日に義父九十五才を亡しその後いろいろと有りますので残念ながら欠席します。若林町長さんには七月同級会でお会しました。がよろしくおつたえ下さい。

堀内照美（上横道出身）

八月十四、十五日、田舎の盆踊りへ行ってきました。太鼓をたたく人もいならしく、音楽だけだったので少し寂しい気がした。

故郷を離れた者が言えない事だが以前のような賑わいが戻って来てほしい。役員の方々は勿論、一生懸命頑張って頂きたい。近年参加出来ず今年こそはと思いきや、残念ですが都合により欠席させて頂きます。

盛大なる総会、懇親会が開催される事をお祈り申し上げます。

山崎浦子（荒井出身）

今年も残念ながら欠席です。孫も無事に出生、早や十ヶ月になり私の娘も何せ御多分にもれず高齢出産の為、その後も何かと体調にトラブルありで、その度おばあちゃんの出番です。孫も可愛盛りです。今年も留守出来ませんので、又の時を待ちます。

堀内長節（田中出身）

いつもお世話様です。何もお手伝いも出来ませんが、この会を楽しみにしております。

中村洋子（田中出身）

第七回ふるさと訪問に行ってきました。

長屋京子（菅平出身）

先日のおふるさと訪問、幹事様他の皆様大変ご苦労さまでした。参加出来ず又お手伝いもせず失礼いたしました。残念に思っています。

細田かね子（赤井出身）

前回の初参加の折に「来年もきつと出席しようね」と約束し合った同級生の坂口進さんがこの五月に急逝されました。残念です。彼に喜んで貰う為にも是非出席させていただき積りでおります。

内川敬代（下横道出身）

いつも御連絡有難うございます。何かと行事が重なって失礼します。三人の子供達も、独立し（十月末の子が結婚）肩の荷もおりる気持ちです。皆様によろしく。

白井健次（曲尾出身）

四月に名古屋に転勤し、又住

み慣れた杉並から赤羽に住居を移転しました。月二回程度東京に帰っておりますが、今回名古屋の職場での旅行が重なり欠席とさせていただきます。御盛会をお祈りいたしております。

三井毅（大庭出身）

関係者の皆様方にはいつもながらご苦勞様です。皆様とお逢い出来るのを楽しみにしておりましたが、都合がつかず失礼します。会のご盛会をお祈り申し上げます。おかげさまで毎日元気です。ご出席の皆様によろしくお伝え下さい。

寄付御礼



平成八年総会に際して、多くのご寄付を頂戴いたしました。誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

真田郷保存会様	二万円
井出 正一様	一万円
塩崎 武男様	一万円
田中 静江様	一万円
長屋 京子様	一万円

広告御礼

日本ダボス第九号の発行に際して多くの方々に協力いただきました。広告は御寄付と共に東京真田町の会の資金として大変助かります。ありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

年会費納入のお願い

総会にご欠席された方で、平成八年度の年会費千円を未納の方は同封の郵便振替用紙にてお振り込み願います。振り込み料は無料です。

又振替番号は、次の通りです。
0011011255577
東京真田町の会

総会・懇親会の予告

平成九年の総会・懇親会は、九月七日(日)、アルカディア市ヶ谷で開催されます。
記念すべき第十回総会です。友人等お誘い合せの上、是非御出席賜りたいと存じます。今からご都合をつけて下さい。追って七月にご案内いたします。

平成7年度 決算報告書

自 平成7年4月1日

至 平成8年3月31日

(単位:円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
前期繰越金	1,721,540	1,721,540	総 会 費	2,000,000	1,308,738
年 会 費	600,000	418,060	会報発行費	600,000	543,840
総会懇親費	1,300,000	1,363,000	会 議 費	250,000	175,680
真田町補助金	500,000	500,000	事 業 費	200,000	0
広 告 費	300,000	430,000	事務通信費	450,000	400,723
寄 付 金	70,000	80,000	印 刷 費	300,000	104,662
雑 収 入	8,460	6,496	渉 外 費	250,000	95,254
			交 通 費	150,000	27,600
			雑 費	50,000	14,316
			予 備 費	100,000	0
			計	4,350,000	2,670,813
			次期繰越金	150,000	1,848,283
合 計	4,500,000	4,519,096	合 計	4,500,000	4,519,096

上記の通り収支決算報告いたします。

平成8年3月31日

会 計 三井 芳郎 ㊞

会 計 田中 恒夫 ㊞

上記の決算報告書は関係資料と照合の結果相違ないことを認めます。

会計監査 関谷 義久 ㊞

会計監査 倉島 保男 ㊞

平成8年度予算

自 平成8年4月1日

至 平成9年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前年度繰越金	1,848,283	総 会 費	1,500,000
年 会 費	600,000	会報発行費	600,000
総会懇親会費	1,300,000	会 議 費	250,000
真田町補助金	500,000	事 業 費	600,000
広 告 費	500,000	事務通信費	500,000
寄 付 金	100,000	印 刷 費	300,000
雑 収 入	151,717	渉 外 費	300,000
		交 通 費	200,000
		雑 費	50,000
		予 備 費	100,000
		次期繰越金	60,000
収 入 合 計	5,000,000	支 出 合 計	5,000,000

平成8年度事業計画

- (1) 真田町少年サッカーを招待し交流試合
- (2) 会報「日本ダボス」第9号発行
- (3) ふるさと特産品の宅配の協力
- (4) 真田町との交流促進のため各種文化事業の実施
- (5) その他

「東京真田町の会」役員名

職 名	氏 名			
会 長	小林 孝雄			
副 会 長	清水 清晴	荒木 孝一	塩沢 和政	
理 事	会計理事	三井 芳郎	田中 恒夫	
	理 事	石垣 節子	飯島慶三郎	飯嶋 義道
		大久保治夫	小林 正子	塚田 恒雄
		長屋 京子	中島 正江	深町 共栄
		山口 元彦	荻原 啓治	堀内 寿美
監 事	関谷 義久 倉島 保男			

編集後記

会報「日本ダボス」も第九号となりました。ご協力くださいました方々ありがとうございます。

毎年の事ですが、総会が終わってホッと一息しています。すぐに日本ダボス発行の時がやってきます。私達編集部員のなやみの種は原稿がなかなか集まらないことです。私達はなるべく多くの情報を皆さんにお届けしたいと思っています。

こんな話は、大勢の方に聞いて貰いたいと思う美談、ニュース等がありましたら、気の付いたとくに一筆書いてお送りください。原稿用紙(四百字)で二枚から五枚までを希望しています。

来年度の日本ダボスは記念すべき第十号となります。原稿締切日は平成九年十月三十日、発行は十二月二十五日です。

冷たい師走の風が吹いてきました。会員のみなさん、真田町のみなさん風をひかれませんか。うお祈りしています。編集部

●写真提供

真田町役場
塚田 恒雄
清水 清晴
三井 芳郎

真田郷

作詞 山宮久義
作曲 緑川敦夫

一
此処は信濃路 真田郷

安らぎ満つる 故郷よ

緑芽生えて 土薫る

自然の恵み 豊かなり

若い力の 育つ町

二
洗馬のせゝらぎ 昔より

名馬の誉れ 世に遺る

深きゆかりの 観世音

象山慕う 地蔵道

月で名を成す 鏡台山

三
松尾城跡に 角間峽

真田氏護持 長谷寺

四季を彩る 山脈は

四阿根子岳 大松山

四方に広がる 菅平

四
つゝじ色なす 居館跡

六連銭の 旗印

真田家偲ぶ 我が里は

三郷円く 和を結び

永遠に伸びゆく 真田郷

永遠に伸びゆく 真田郷

真田郷



日本ダボス (平成8年12月25日発行)

発行 東京真田町の会 会長 小林孝雄
編集委員 清水清晴 三井芳郎 飯嶋義道
長屋京子 堀内寿美 小林正子
印刷 旬中沢活版所